（別紙4）

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 2470501418 | | |
| 法人名 | 有限会社　すずらん | | |
| 事業所名 | グループホーム　潮風 | | |
| 所在地 | 三重県津市阿漕町津興214－2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成　27　年　10　月　20　日 | 評価結果市町提出日 | 平成28年4月11日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470501418-00&PrefCd=24&VersionCd=022 |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 社会福祉法人　三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 平成　28　年　2　月　2　日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご家族様をも含めた大家族と捉えている中では、日常的にご家族様との交流がある。入居者様を中心に職員ともざっくばらんな関わりを持たせて頂いており、実家のように気軽に日常的に寄って頂いている。オープンで明るい家庭的な雰囲気が自慢です。昔取った杵柄を発揮して頂く中で、職員と一緒に家事を協働して頂いている。終の棲家としてご本人ご家族様の最期の迎え方を尊重し看取りをさせて頂いている。終末期の迎え方についてはご家族様の方向性に寄り添い柔軟な対応をさせて頂いている。主治医の指導を基にご家族様と心を合わせ、心穏やかに終末期を過ごして頂き、尊い看取りへと繋げさせて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

津市内の海岸近くに建つ事業所で、1ユニット9人の利用者が穏やかに生活を共にしている。一帯は住宅が建ち並び、常に人の声がするような温かみのある環境であり、事業所としてはその理念の中に「地域貢献」を盛り込むなど地域に溶け込んでおり、海岸清掃や地蔵盆などの行事に積極的に参加している。事業所の特色としては重度化や終末期に向けた取り組みを積極的に行っており、これまで12人の実績がある。このことは利用者のみならずその家族とも強い信頼関係を築いているゆえんであり、過去の利用者の関係者が入居を希望してくるという所にも見て取れる地域と利用者に根ざした事業所である。

## Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | ○ | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | ○ | 1. 大いに増えている |
| | | | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | その人がその人らしく暮らせる個々に合わせたオンリーワン支援・笑顔あふれる暮らしを大切にしている。入居者を中心にご家族様・職員が思いをひとつにした日常的な関わり持たせて頂く中で、我が家に居るようにのんびりと過ごして頂いている。 | 利用者の笑顔、オンリーワンの支援、地域貢献などを柱として5項目からなる事業所理念は、開設当時のものに管理者と職員が協議を重ね創案されたもので、玄関・ロビー・事務室などに掲示され、日々の支援の中に生かす努力をしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会・子供会・幼稚園行事に参加したり協力したり日常的な交流を行っている。地域の一員として又健康作りの一環として減塩味噌作り等は定着している。防災についても近隣自治会の協力体制を頂いている。 | 自治会に加入しており海岸清掃や地蔵盆など地域の行事に積極的に参加したり、逆に近所の子供達や幼稚園などの訪れがあったりして地域との交流は密接である。また、ほぼ毎月何らかのボランティアも受け入れており地域の一員としての地位を確立している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症と家族支援を支援する為定期的な介護相談会に支援者として参加している。認知症の施設としていつでも気軽に相談して頂ける窓口である事を、行事の機会を通して発信させて頂いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 偶数月の第三金曜日を定期開催として計画的に参加して頂いている。潮風の現況報告、その都度の課題を話し合ったり、聞かせて頂いた意見を行事等に反映出来るよう努めている。 | 2ヶ月に一度開催しており、市役所の担当や民生委員が行政側の立場で参加しているほか、地域ゲストとして近所の人や以前の利用者の家族などが自発的に参加している。会議には資料に基づく報告と、そこからの意見出しを促しているが思うに任せない部分もある。 | 運営推進会議は各方面の参加者の意見が聞けて、それを生かす方法を考えていく場であるが、現状では出された意見をどう捉え生かしていくかが些か検証不足気味である。議題に対する意見の整理を見直し、運営に生かされることを期待する。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 疑問点等日常的な相談に対して気軽に応じて頂いている。その都度細やかなアドバイスや指導が頂けるのでとても心強い。 | 市役所へは介護保険の更新時や制度上の聞取り等に訪れている。事業所の実情などは運営推進会議などで説明し、また行政の情報も示されたりして市役所との関係は良好である。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないケアについてはその具体的な例を挙げ説明している。個々に適した方法についてはご家族や職員の意見を踏まえ慎重にその都度最適と思われる方法を検討するようにしている。 | 基本的事項に事業所独自のものを加えた防止マニュアルを作成しているが、更に利用者一人ずつについて対処方法まで含めたマニュアルを作っている。職員への教育は、毎朝のミーティングと情報共有ノートにより都度確認し指導を行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 法律の内容・課題背景を示し、虐待のない介護を徹底している。介護リスクを全体の問題として捉える中で情報を共有し、職員の介護ストレスが虐待に連鎖しないように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護についてはマニュアルを常備し理解できるように努めている。1名の方が成年後見制度を利用されている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居に至るプロセスをお聞きしていく中で、ご本人やご家族の思い・要望等を十分に傾聴し話し合いを深めるようにしている。潮風とご家族が思いをひとつにした相互理解をした上での契約とさせて頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日々の関わりの中で、思いを言い出しやすいよう声かけをしている。面会時を利用してご本人の状態を示し近況報告を行う中でご家族の思いや要望を聞かせて頂き、要望の実現に向けた支援を工夫している。 | 不定期ではあるものの事業所全体の運営などを“たより”として発信している。また利用者の多くが近隣の出身であり、その分家族の訪れる機会も多く説明と情報交換を常に行って運営に役立てている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日々の業務の中で情報の共有・情報交換を密にしている。情報共有ノートを日常的に活用し、その時々の意見や提案・困りごと等を記入する事で、リアルタイムでの問題解決へと繋げている。 | 毎朝のミーティングの他は定まった会議は行っていないが、日常業務の中で疑問や提案がなされた時はその都度集まって意見を出し合っている。その結果として管理者で判断できること、また会社上層部に伝えることなどを整理し運営に役立てている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個々のライフスタイルを優先した勤務スタイルの実現に努めている。個々の職員のモチベーションが高められるような支援を心掛け、頑張った職員が報われるような賃金体系へと繋げている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 苦手分野のある職員には、力量のある職員・管理者が克服に向けたサポートを心掛けている。自信を積み上げる中で個々の力量が高められるようにその都度可能な方法で資質の向上に向けた指導・内部学習に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域密着型協議会・認知症家族の会・地域包括支援センター・小規模ケア研究会・医療関係者との交流を深める中で、見聞を広めたり、その学習会等を活用しサービスの向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | アセスメントした情報を含めた中でゆったりと傾聴し、ご本人の願いや希望等・真の思いを引き出すようにしている。寄り添う中で信頼関係を築きあげ安心感を持って頂けるような関係作りへと繋げている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居に至るまでの苦悩や葛藤をゆったりと傾聴させて頂く中で不安に思っている事、求めている事等を把握するように心掛けている。、本音が吐き出して頂けるような対話を心掛け、信頼関係が構築出来るように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 表面的な訴えだけに捉われる事なく、対話していく中から真に必要としているを事を見極めていくようにしている。相談内容を傾聴する一方で専門職としての見解を示し、必要な支援へと繋げていくように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日々の家事等個々に出来る事は職員と協働で行って頂き、共に仕事をする中で得意を発揮して頂けるようにしている。本人の意欲を引き出し、達成感を感じて頂く事が、自信の回復及び生活力の喚起へと繋がっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者・ご家族・職員がひとつの家族であり日常的に交流がある。本人にとっては潮風が我が家であり、ご家族にとっては実家であり、潮風での看取りが家族に囲まれての尊厳ある最期・意義のあるものへと繋がっている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の希望やご家族様の情報を聞かせて頂き、今までのご本人を取り巻く関係を勘案する中で、可能な限り入居までの関係が途切れないように、大切に支援させて頂いている。 | 住宅地の中にある事業所であり近所の人達と利用者は顔馴染みである。散歩などの機会にこれらの人達との交流を深めて関係継続に努めている。また家族による墓参などの他、美容院、マッサージなどには職員が出来る限りの支援を行っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご本人の性格・趣味・職業・今までの暮らし方・生活環境、又身体状態等も勘案しながら相性の良い方を見極め、相性の良い関係作りへと繋げていけるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院された方・潮風での看取りをさせて頂いた方・そのご家族が立ち寄って下さり、現在も日常的に交流させて頂いている。行事等にも声掛けを行い参加して頂いている。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人やご家族の思い希望をしっかりと聞かせて頂く中で、ご本人にとっての最適な方法をひきだしていけるように努めている。 | 利用者の多くは意思表示が明確でない場合が多いが、独特のしぐさや癖などによって推し測るようにしている。それでも困難な場合は、家族の意向も踏まえながら何よりも利用者本位となるよう支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴や過ごし方等ご家族からの情報の基、今までに慣れ親しんだ暮らし方が尊重出来るように、常に心掛け潮風での生活に反映出来るように支援させて頂いている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の暮らし方や価値観を尊重した日課を工夫する中で、生活力の喚起が図れるよう側面的な支援を心掛けている。その時々の思いや希望を取り入れた生活が可能となるように支援させて頂いている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | どのように過ごしていきたいと思っていられるのか、ご家族の要望等を聞かせて頂く中で、細かな状態の変化に応じた支援方法を検討し、ご本人らしい生活の実現に向けた介護計画を考案させて頂いている。 | 入居からアセスメントを経て仮プランをスタートさせ、全員でのモニタリングを3～6か月ごとに行い、管理者がこれを計画に反映している。また利用者ごとの日々の介護記録を作成し、常に最新の情報に更新することで職員間の情報共有としている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録を基本に捉える中で、リスク管理する為に必要な情報の共有・特記の記録・個々の状態に応じたリアルタイムでの詳細な援助方法を情報共有ノートとして日常的に活用し個別な支援へと繋げている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その人がその人らしく暮らせる個々に合わせたオンリーワン支援を工夫している。日常的にご家族との交流もあり、その都度の状況に応じた最適な方法を話し合う機会となり柔軟な対応が可能な環境となっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 自治会・子供会・民生委員・幼稚園・ボランティアさん等との協力をはじめ、医療福祉関係者等との交流を通して社会性の充実を図り、安心して安全に暮らせる生活作りに努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 個々の入居者・ご家族様の意向を反映した上で、協力医による定期往診及び24時間対応による随時の相談・往診体制をとっている。 | 殆どの利用者が協力医による診療を受けており往診は月2回来てもらっている。また、それ以外の診察は基本的に家族が対応しており、管理者が同行して状況の報告をしている。看護師は配置されていないものの協力医との連携を密接にしており不安を感じさせることはない。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 協力病院の看護師には日常的に相談している。医師の所見を含めたアドバイスがその都度ありとても安心感が持てる体制を構築している。又地域の看護師との交流も多く情報交換も密にしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ご家族・医師・看護師・ソーシャルワーカー・病院関係者との交流を日常的に行う中で、そうした時に最善な対応が可能となるような関係作りの構築に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期のあり方については、日頃からご家族・主治医との話し合いを重ね、万が一に備えている。並行して個々の終末期のあり方についての情報を職員間で共有、その方とご家族にとっての最善な終末期ケアに向けて意思統一を図っている。 | 家族には入居時に事業所としての方針を説明し確認を取っている。これまで12人の看取り実績があるが、職員に対する特段のマニュアルなどはなくその場における実地の対応を示し研修としている。その場に臨む時には管理者が泊まり込んでの対処を率先して行っており、利用者・家族の大きな安心となっている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 個々の身体状況については各職員が日常的に把握し予測される事態に備えている。一方で慌てず的確な行動・適切な対応が可能となるよう日常業務の中で話し合いを深め実践している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害時の対応についてはその時々の有効な方法をリアルタイムで情報発信するようにしている。入居者・職員の意識づけをはじめ、ご家族への情報共有を欠かさずおこなっている。地域との情報交換の場として運営推進会議を活用している。 | 災害に対する訓練は火災や津波を想定して年2回ほど実施している。隣の市営住宅の4階が公共避難先に指定されており、散歩の時など利用者と共に何度もシミュレーションしている。その他、災害食の炊き出し訓練なども行い、災害に対する備えの意識は高い。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個々のプライバシー・プライド・人格の尊重等については職員間で十分に意思統一を図り、個々に応じたその人にふさわしい方法をその都度工夫している。 | 「利用者の態度は職員の鏡である」ことを心構えとし、職員には利用者を人生の先輩として尊敬すること、そのうえで信頼関係を築くことを指導している。また利用者間においても各々の関係性に配慮しながら食事時やロビーでの過ごし方について工夫をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の気持ちに寄り添う中で、その時々の思いを共有共感し、真の思いが意思表示して頂けるように側面的な働きかけを行うように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 自信を持って生活して頂けるように職員はさりげなく、その日の身体の状態や精神面に配慮しつつ、本人の希望を取り入れた過ごし方が可能となるように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 着心地・着脱を優先しつつ、アクセサリー・マニュキュアなど希望あるおしゃれを楽しんで頂くようにしている。ご家族の方の眉剃り・お化粧ボランティア訪問も楽しみのひとつとなっている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 栄養だけに捉われずその日の入居者のリクエストに応えたり、旬の食材を献立に加えたり、食事が楽しみとなるように工夫している。又大家族のようにテーブルを囲み会話しながらの食事も楽しみな貴重な時間となっている。 | 食事は職員が交代で調理し、メニューの相談や栄養チェックを含む評価は管理者が行っている。利用者からのリクエストも多く出来る限り対応しているが、時には利用者も簡単な調理に参加したりして食事を楽しむ工夫がなされている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | カロリー・栄養配分・水分量・好み・主治医の意見等を勘案する中で個々の摂取の目安を決めている。個々の口腔機能に応じた調理方法や好み等を考慮しながら食事を楽しみとして頂けるように努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 朝・夕の歯磨きやうがい・必要に応じた残渣物の除去などその方に応じた方法で口腔内を洗浄、義歯については夜間は外し洗浄後ミルトン消毒するなど、個々の状態に応じた方法で口腔内の清潔保持に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 尿意のある方・曖昧な方を問わず、特別な事情のない限り日中はトイレ使用を基本とし、自然な排泄が可能となるように支援している。定期的・随時に気配や訴えに対応する中で、自立に向けた側面的支援へと繋げている。 | 利用者は布パンツと紙パンツが約半数ずつであるが、目指すところは自立であり、排泄の管理表を日々作成し、職員が共有する中で定期的な排泄パターンをつなげる工夫をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々の排便リズムを確認した上で食生活を工夫する等整腸に努めている。必要に応じて腹部マッサージを試みたり、体操・散歩・歩行練習等気分転換を兼ねながらの運動も日課に取り入れるように努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 清潔保持・血流の向上・爽快感等を視野に入れた健康管理の手段として特別な事情のない限り毎日入浴としている。日課のひとつとなり楽しみにされている。気分転換にもなり健康維持に大いに繋がっている。 | 毎日の入浴を基本にしているが利用者の状況によりほぼ2日に1度のペースとなっている。入浴を嫌う利用者にはタオルを選ばせたり入浴剤を入れたりして促すようにしている。全体的には節気などに特別の湯を立てたりして入浴への工夫をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 出来る限り楽しみな時間を共に過ごす・1日1回屋外に出て日光浴（体内時計のリセット）・個々の状態に合わせて散歩を楽しんで頂く等、夜間の安眠へと繋げている。個々の眠りに合わせた就寝・起床時間を優先している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋にて薬効・薬害・服用方法を確認する事を基本とする一方で、情報共有ノート等を活用し全職員の認識を深めている。又日常の関わりの中の微妙な状態の変化を察知する視点を常に持ち日々関わるように努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 能力に応じた家事を手伝って頂く中で自信の回復・自信の喚起へと繋げるようにしている。職員をも含めた大家族の中で出来る限り家事を分担し協働することが自身の役割意識・連帯感・達成感へと繋がっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外気浴や散歩は近隣の方とのふれあいや季節を感じて頂く機会となっている。機会を見つけての外出や外食等にも随時対応。又ご家族とも外出外食を楽しまれる方もみえる。自治会・子供会・幼稚園・ボランティア訪問等行事も交流の機会となり楽しまれている。 | 日常的には、天気さえよければ散歩に出かけている。近くには畑や海が見え、また近所の人とふれ合ったりして楽しい時間を過ごしている。その他、地域のイベントに呼ばれたり季節ごとの花見に行ったり、利用者からのリクエストも含めて出掛けることは多い。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人・ご家族の意向に沿って対応させて頂いている。小遣い程度を自身で持ってみえる方もみえるが、希望されるものを献立に加えたりおやつに取り入れている中では、使い道なく自身で持っているという満足感にとどまっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族や知人との交流が活発に継続して頂けるように支援している。その都度の訴えに耳を傾けながら、その時々の思いの実現に必要な支援に努めている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 食堂・リビング等の共同スペースは邪魔にならない程度の音量を流し柔らかな空間としている。施設内空間には季節行事・個々の思い出の詰まった写真等を掲示、満足気に眺めては会話の糸口にも繋がっている。 | 玄関を入るとすぐに明るいリビングと、高い天窓のある廊下が見渡せて開放的な空間となっている。リビングは南からの日差しが入り明るく、利用者は殆ど居室に籠ることなくお喋りをしたり体操や時にはカラオケをしたりして楽しんでいる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食堂・リビング等はふれあい・交流を楽しむ空間として、ソファーでは親しい人とのおしゃべりやご家族や知人とのくつろぎの場として、独りになりたい時は居室に行かれたりと、家庭的な雰囲気の中で思い思いに自由に過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 慣れ親しんだこだわりの物を個別に使用して頂いている。違和感なく落ち着いた気持ちで過ごして頂けるような環境（居室）作り等、ご本人ご家族と十分に話し合いながらその都度実現に努めている。 | ベッドやチェスト、机、椅子などが備え付けられ殆ど持ち込みの必要のないほどであるが、中には簡易な仏壇や使っていた毛糸編み機などを持ち込んでいる利用者もある。部屋の中は利用者の状況に応じて手すりなどが設置され無理のない動線が確保できるよう工夫されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々のできる事できない事の詳細把握に努める中で状態に応じた支援を工夫している。身体的・精神的残存機能を勘案しながら、個々の動きに合わせた動線を確保し、（安全な環境）自立に向けた側面的な支援に努めている。 | | |